

# 平成25年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくりをとおして、地域との連携を推進し、意欲と適性のある生徒の募集に組織的に取り組む。</li> <li>基礎・基本を重視したきめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲を高め、基礎学力の向上に取り組む。</li> <li>基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的活動の習慣化に取り組む。</li> <li>生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成	次年度への課題と改善策
1	商業科・情報処理科の特長や魅力が十分に理解されていない。 ビジネス社会で活躍できる意欲と適性のある志願者確保が課題である。	①両学科ともに定数を超える志願者を確保する。 ②組織的に学校をあげて体験入学・説明会を企画し実施する。	①毎月、熊商ジャーナルを発行し、中学校・中学生に対して魅力ある情報提供を行う。 ②中学校への出前授業を実施し、商業教育の魅力を直接伝える。 ①在校生による丁寧な学校説明を実施する。 ②毎回、求める生徒像や本校の強みをPRする。	①入試の倍率が両学科とも1.0倍を超えたか。 ②出前授業のアンケート結果で熊商の理解度が80%以上か。 ①参加者の満足度が90%以上か。 ②各種説明会、進学フェア等への参加・実施回数。	①志願倍率(1月)、商業:1.18倍、情報:0.86倍であった。 ②出前授業は会計や企業分析など、新たな分野で行った。(商:1.13→1.04→1.18)(情:1.16→0.91→0.86) ①アンケートの結果、役に立ったと回答した生徒が98%である。 ②学校内部で5回、外部で8回の学校説明を実施した。	A A	<課題>説明会や体験入学、進学フェアに関しては、回数や開催時期、場所などを考察する意見があり改善が必要。 <改善策>○商業設置学科の生徒募集は厳しい。学校が目指す方向性や人材育成の観点を明確に示す。○広報誌の継続発行や、出前授業の実施を踏まえ、魅力を発信していく。
2	学力が低下している。基礎学力の定着に努めるとともに生徒に学習習慣を身に付けさせることが課題である。	①朝学習の定着と検定指導の充実により学習習慣を身に付けさせる。 ②授業研究を行いわかる授業を推進する。	①朝学習を支援し、生徒に自主的な学習習慣を身に付けさせる。 ②学年単位で、朝及び放課後の検定指導を行う。 ①得意分野を持つ教員による授業研修会を実施する。 ②大学や専門学校と連携した事業を実施する。	①朝学習に積極的に取り組んだ生徒が80%以上か。 ②全商3種目以上の1級合格者が増加したか。 ①定期的な実施できたか。 ②高度な資格を取得することができたか。	①学年、教科の協力の下、今年度も継続実施ができた。 ②3種目以上73名(内4種目以上:30名)、基本情報:1名、ITパスポート:3名(H24:28名) ①朝補習を継続実施、教員が互いの教授法を公開し合った。 ②基本情報技術者試験などの高度な国家資格に合格した。	A B	<課題>自主的な学習習慣を身につけさせる意味での朝学習の定着は、まだ不十分である。学年や教科との連携を保ちながら生徒を支援する必要がある。 <改善策>○資格取得など自己目標を掲げさせ、学習習慣を身につけさせる。○新学習指導要領に対応した指導法を研究し、課題解決を行う。
3	あいさつや礼儀の大切さを指導している。高校生としての自覚と誇りを持たせ、基本的な生活習慣を定着させることが課題である。	①校門での登校指導を定期的に行い、遅刻者数を減少させる。 ②道徳教育と部活動の指導により、規律を守る大切さを理解させる。	①学年と連携し、朝学習を定着させ遅刻数も減少させる。 ②PTAも参加した校門での登校指導を実施する。 ①人間としての在り方生き方教育で倫理観を育成する。 ②賞賛と激励により部活動等に積極的に参加させ、評価する。	①遅刻数が昨年度と比べ減少したか。 ②PTAと連携した登校指導が実施できたか。 ①計画どおり実施できたか。 ②部活動に積極的に参加する生徒が70%以上か。	①H24(600名減少)に比べ、遅刻者数は増加傾向であった。 ②計画的に登校指導を実施し、交通安全の啓発運動を行った。 ①人権、暴力根絶、情報モラル講教室等を計画的に実施した。 ②アンケートの結果、部活動への積極的参加生徒値は、80%。(H24:55%→H25:80%)	B A	<課題>欠席や遅刻の数は1学期当初は少ない。しかし、進路決定後、年度の後半になると、増加傾向が見られる。 <改善策>○PTAや外部と連携した校門指導を継続実施する。○いじめ防止対策の観点から、生徒の倫理観醸成のため、道徳教育を充実させる。
4	就職希望者が増加している。専門知識を深めるための進学や社会人となる就職についての生徒の意識を高め、質の高い進路決定を行うことが課題である。	①ガイダンスの充実と進路相談の充実により、進路意識を高める。 ②新規求人への開拓と実践的な進路指導により、進路決定率を100%にする。	①就職・進学について生徒、保護者に早めの情報提供を行う。 ②ガイダンスを充実させ進路についての関心を高めさせる。 ①ハローワーク等と連携し、就業エリアを拡大した新規求人への開拓を行う。 ②企業人等による面接指導を充実する。	①情報提供の満足度が90%以上か。 ②ガイダンスの満足度が90%以上か。 ①進路決定率が100%か。 ②生徒の満足度が80%以上か。	①(保)アンケート結果77%が満足。(H24:79.8%→H25:77%) ②ガイダンスの満足度(1,2年生)は86%であった。(H24:93%→H25:86%) ①就職、進学者共に100%であった。無業者は皆無である。 ②3年生の進路行事、ガイダンスの満足度は86%であった。(H24:81%→H25:86%)	A A	<課題>1,2年生の就職希望者は51%、増加傾向。自己のキャリア形成に必要な上級学校へのアプローチが、今後も必要。 <改善策>○進学支援情報の提供を含め、充実したキャリアガイダンスを行う。生徒に高い目標を持たせ、自己実現に導く。○成績上位者の大学進学率を向上させる。○引き続き新規求人への模索、開拓を行う。

学校関係者評価
実施日 平成26年 2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>商業関係学科の志願倍率が伸び悩んでいる現状から、志願者確保につなげるためには、熊商の魅力を確認し、新たな生徒募集策が必要である。優秀な生徒が多く集い、実績を残していた時代を鑑み、以下のことに対し、今後も鋭意努力してもらいたい。</p> <p>●熊商の魅力、の柱は部活動である。中学生が商業高校に魅力を感じる活動や、実績を残し、成果を生徒募集に活かしていく。</p> <p>●説明会の時期や内容を刷新する。</p> <p>熊商に入学し、商業科目を学び、資格取得に励み、進路実現につなげることは、普通科の在籍者とは、大きな差別化となる。三種目以上1級の取得者数が大きく伸びてきている。実績を残す意味からも引き続き、生徒への指導や支援をしていただきたい。</p> <p>●朝学習(自学自習)の定着と、自発的な学習習慣の確立を目指す。補習や補充授業には、生徒自ら積極的に参加させる。</p> <p>●授業や補習に臨む積極的姿勢を育成する。</p> <p>卒業後、実社会に直面する生徒が多い。規範意識の醸成を図りながら、挨拶の徹底、遅刻者を減少させるなど、教職員が一丸となり、生徒指導を実践してもらいたい。</p> <p>●朝学習と連携した遅刻防止活動など、分掌や学年の枠を超えた指導体制を構築しながら、「時を守り、場を清める」ことのできる、生き生きとした生徒を育成する。</p> <p>●部活動の活性化政策が、学校全体をリードし、牽引できる体制を構築する。</p> <p>就職の実績が顕著な本校に入学したいという中学生が増えている。就職をしたいので熊商へという考えも定着している。進路決定率100%が続き、多くの企業や上級学校から信頼を得ている。今後も、無業者(フリーター)をつくらない姿勢を継続しながら、生徒の自己実現に向け、継続して生徒の指導、支援を続けてもらいたい。</p> <p>●学び続ける姿勢を育成し、成績上位者の上級学校への進学体制を構築する。</p> <p>●的確かつ最新の進路情報を提供する。</p>